

キャン ドウ

CanDo アフリカ

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会(CanDo)会報 2024年9月[第107号]



活動の方向性 父母リーダーによる学校活動の形成

永岡 宏昌

ボランティア便り チェンジング・ルームが必要です

永岡 宏昌

ひと 準スタッフを終えて

野嶋 真衣

報告 マラウイでの活動—2024年6月～8月—

フォト・レポート パロンベ県の初等学校1～4年生の時間割

事務局から

上の写真は、クランベ教育区における父母リーダーへの集合研修
下は、クランベ教育区の初等学校における研修を修了した父母リーダーによる保護者向け学習会

父母リーダーによる学校活動の形成

代表理事 永岡 宏昌

2023年12月にJICA草の根技術協力事業として開始した、マラウイ共和国パロンベ県での「ライフスキル教育を基盤とした子どもの教育と健康・安全を保障する活動形成事業」(4教育区を対象として3年間)では、ナゾンベ教育区とクランベ教育区で父母リーダー研修を完了しました。2教育区の全ての初等学校—11校と12校—から10名ずつ、計230名の保護者が父母リーダー候補として各12回の半日研修に参加しました。出席率は97.4%でした。

熱心に研修に参加してくれた父母リーダーに、次に2つのことを期待しています。研修で理解を深めた子ども教育・健康・安全に関する課題と対処法を、ライフスキル教科書を活用して一般の保護者に分かり易く伝えること。そして、課題の解決に向けた学校活動として、施設の改善に取り組むことです。

父母リーダーの活動予算として、各校に資機材購入費100米ドル*を準備しました。父母リーダーは、研修で学んだことを参考にしながら、学校の子どもが抱えている課題、その解決策を活動計画として作成します。計画の中で、100米ドルで取り組める活動を2つ取り上げ、検討してもらいます。

予算を検討するにあたって前提条件が2つあります。

①活動に現地職人が必要な場合は、父母リーダーがボランティアとして確保し、当会から技術指導する専門家を派遣すること。

②資機材の購入は当会が実施し、学校まで搬入すること。

この活動計画と2つの活動について話し合うために、父母リーダー、校長、村長、保護者代表、そして一般保護者も参加する会議を開催します。父母リーダーが発表し、話し合っ一般保護者が1つの活動を選択します。その場で当会と学校との間で活動覚書を締結します。

ナゾンベ教育区全11校で覚書締結が完了しています。話し合いでは同じような意見と反応が見られました。「現地職人がボランティアで参加するはずはない」との発言に対して、参加している現地職人が「無償で参加」を説明し、一同納得。当会専門家には保護者から食事などを提供しなくてよいことを説明し、安心。「この活動で父母リーダーは利益を得るのではないか」という直截な質問に、資機材の購入はCanDoが行ない、リーダーは現金を扱わないことを説明し、納得。教室の床補修、机修理、女子トイレと生理ナプキン交換室の補修、建設中の教員住宅の床張りなどに取り組むことが決まりました。

* 別途ライフスキル教員の資材費に100米ドル。

ブランタイヤ便り

チェンジング・ルームが必要です

永岡 宏昌

2023年12月にパロンベ県で「ライフスキル教育を基盤とした子どもの教育と健康・安全を保障する活動形成事業」を開始する前の段階から、当会は多くの学校を訪問して、子どもが抱える課題について学校関係者から聞き取りをしました。

その中で、「チェンジング・ルームが必要です」という意見が多く聞かれました。私は「更衣室」と頭の中で変換したため、はじめはあまり理解になっていませんでした。話を聞くうちに、「女子生徒が生理ナプキンを交換するスペースが必要」という意見だと理解できました。また、ナプキンを洗えるように、バケツを購入したいとの意見もありました。

知ったのは、生理中の女子生徒が学校内で困っている状況だけではありませんでした。ナプキンの交換のために自宅まで戻って、学習時間が無駄になること、学校を休む女子も多いこと。これらが原因となって授業についていけなくなり、中退につながるなどの状況が聞かれました。

学校訪問で「チェンジング・ルーム」を見ました。どこの学校も同じ設計の女子トイレで1室には2室分のスペースを使っています。手前は床に穴のみを開けた「落とし込み便所」で、間にドアを付け、奥のスペースは

床に穴を開けずに、生理ナプキンの交換場所にしていました。2022年ごろに、県内の多くの学校に同じ規格の「生理ナプキン交換室付き女子トイレ」が、さまざまなNGOが実施団体となって建設・供与されたようです。この新スタイルのトイレが、学校関係者に理想的な形として理解され、「チェンジング・ルームが必要です」との大きな意見になっているようです。学校関係者が、女子の生理について、学校での安心できる環境、そして授業参加や継続の課題と関連付けて理解を深め、取り組むべき優先課題として語っているのは、大きな効果だと思えます。

現在、ナゾンベ教育区の初等学校において、父母リーダーが、資機材費100米ドルで実施する学校活動計画の中に、チェンジング・ルームに関係する活動案が3校で出ています。

- ・サイクロンで飛ばされた屋根の修理
- ・崩壊した地下と床面の復旧
- ・トイレが使い捨てナプキンで埋まったのでチェンジングルームとして使用したい、

屋根の修理については、即、取り組みそうです。施設改善だけではなく、父母リーダーが、ナプキンの取り扱いなどマネージメントの側面にも関与する意義がありそうです。

現場での経験

野嶋 真衣

マラウイで過ごした6か月間はとても濃く、学びが多かった。私がいた期間は、ベースライン調査、合意形成、父母リーダーの研修準備、研修実施など、日々の活動が目まぐるしく変化する時期だった。各ステージにおいて中心的価値を最大化し、副次的利益を最小限にとどめるために工夫が凝らされていたこと、そして慎重かつ、辛抱強くなる必要があった。この6か月間、現地の人に持続的に良い

変化をもたらすために何が重要かということ深く考え、CanDo の活動ではその問いに対する一つの答えを学ぶことができた。さらに、現地の人から外国人に向けられる視線や、物乞いをされる際に感じる葛藤など、アフリカに住んだからこそ感じられたこともあった。今後は大学院で開発学を学ぶ予定であるが、進学前に現地での経験を積むことができたのは、今後の研究やキャリアを考える上でも非常に貴重であった。

報告 マラウイでの活動—2024年6月～8月

■ パロンベ県—ライフスキル教育を基盤とした子どもの教育と健康・安全を保障する活動形成：事業期間3年の前半は、ナゾンベ教育区とクランベ教育区で活動

□6月
クランベ教育区(z9*)の全父母リーダー、3校の学校関係者、うち1校の2村の村人への質問票調査を実施/ナゾンベ教育区(z8*)で父母リーダーへの研修(全12回)を完了/z9で2回の研修を実施/z8で父母リーダーによる保護者向け学習会を6校で開催/z8で学校活動の活動計画書の説明会を開催/z9でライフスキル教科書の供与が完了

□7月
クランベ教育区(z9)で父母リーダーへの集合研修を実施。出席する父母リーダーへの交通費の支給の手順を確立/ナゾンベ教育区(z8)の2校で学習会を開催/z9の10校で学習会を開催/z9で活動計画書の説明会を開催/z8の10校で活動計画書を協議

□8月
クランベ教育区(z9)で、1日、研修が完了/ナゾンベ教育区(z8)の7校で活動計画書を協議/z8の9校で覚書を締結/z8で父母リーダーが2校の通学圏の3村において学習会を開催

*パロンベ県9教育区(zone)で付けられた番号

フォト・レポート

パロンベ県の初等学校1年～4年生の時間割

The image shows two handwritten timetables. The top one is titled 'MASTER TIMETABLE FOR INFANT AND JUNIOR SECTION' and the bottom one is 'MASTER TIMETABLE FOR SENIOR SECTION'. Both tables list subjects such as MATHS, ENG, CHICH, TIKWERE LIB, EXP. ARTS, REMED, and SES across various time slots and days of the week.

マラウイの初等学校は8年制です。

INFANT SECTION: 1～2年生

JUNIOR SECTION: 3～4年生

SENIOR SECTION: 5～8年生

授業時間は1～2年生は30分、3年生以上は35分になります。

MATHS: 算数

CHICH: チェワ語

ENG: 英語

TIKWERE LIB: ラジオ授業

L/S: ライフスキル教育

AST: 農業・理科・技術

SES: 社会・環境学習

EXP. ARTS: 美術

B/K: 聖書知識 REMED: 補習

REMED: 補習

事務局から

人の動き ~2024年9月10日

○7月19日、準スタッフとして武村妃南(たけむら ひな)をマラウイに派遣。

○7月26日、代表理事(兼 事業責任者)永岡宏昌がマラウイに出張。

○8月1日、調整員 浅利有紀が任期を終了して、マラウイから帰国。

○8月21日、準スタッフ 野嶋真衣が任期を終了して、マラウイを出国。

○8月29日、準スタッフとして庄村萌々(しゅうむら もも)をマラウイに派遣。

○9月1日、武村妃南が準スタッフから短期スタッフに昇格。

お知らせ

国際協力70周年

9月28日(土)・29日(日)、グローバルフェスタ JAPAN 2024 にリアルで出展します

70年前、1954年10月6日、日本はコロンボプラン(前年に発足したアジア及び太平洋地域諸国の経済社会開発を促進するための地域協力機構)の加盟を閣議決定して、同月、会合に正式加盟国として参加。1987年、閣議了解でこの日は「国際協力の日」と定められました。その前週、今年もこのイベントがリアルとオンラインにより開催されます。会場は変わって屋内は新宿住友ビル三角広場、屋外は新宿中央公園 ファンモアタイムひろば(水の広場)。



時間は10時~17時。当会は屋内のブースで、パネル展示とパソコンの画像を使って、ライフスキル教育の活動を紹介します。

■次号は、2024年12月に発行の予定です

CanDo アフリカ [第107号]

2024年9月19日発行

発行人:

永岡宏昌

編集人: 佐久間典子

発行:

特定非営利活動法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)
〒110-0001 東京都台東区谷中2-9-14 第2森川ビル B号室

電話:

03-3822-1041

電子メール:

tokyo@cando.or.jp

ウェブサイト:

<https://www.cando.or.jp/>

facebook page:

<http://www.facebook.com/candoafrica>

郵便振替:

口座番号 00150-2-15129 加入者名 アフリカ地域開発市民の会